

平成 25 年 9 月 12 日
消 防 庁

平成 25 年度消防防災機器等の開発・改良、消防 防災科学論文及び原因調査事例報告に関する表彰 受賞作品の決定

この度、平成 25 年度「消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学論文及び原因調査事例報告に関する表彰」の受賞作品を決定しました。

本表彰制度は、消防防災機器等の優れた開発・改良を行った方、消防防災科学に関する優れた論文を著した方、原因調査に関する優れた事例報告を著した方を消防庁長官が表彰することにより、消防科学技術の高度化と消防防災活動の活性化に資することを目的として、平成 9 年度から実施しています。

平成 25 年度においては、全国の消防機関、消防機器メーカー等から総計 90 編（機器の開発・改良 30 編、科学論文 40 編、原因調査事例報告 20 編）の応募があり、選考委員会（委員長 亀井浅道 元横浜国立大学特任教授）による厳正な審査の結果、別添の 27 編を受賞作品として決定しました。

表彰式は、下記の日時・会場にて執り行います。また、同日、ニッショーホール（日本消防会館）において開催される第 61 回全国消防技術者会議（消防研究センター主催）の中で、受賞者による、作品の口頭または展示による発表が行われます。

記

（表彰式）

- ・ 日 時 平成 25 年 10 月 24 日（木） 11 時 30 分から
- ・ 会 場 ニッショーホール
東京都港区虎ノ門 2-9-16

《添付資料》

- ・ 別添 1 受賞作品概要
- ・ 別添 2 応募作品一覧
- ・ 別添 3 第 61 回全国消防技術者会議の開催について（ご案内）



連絡先
消防庁消防研究センター
研究企画室：細川・松島
TEL 0422(44)8331
FAX 0422(44)8440

平成25年度
消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学論文及び原因調査事例報告に関する表彰
受賞作品概要

(受付整理番号順)

1 優秀賞（24編）

A：消防職員・消防団員等による消防防災機器の開発・改良（5編）

（1）空気呼吸器の圧力を利用した消防ホースの救助器具としての使用方法と機器の改良

田代 賢司、小倉 克俊(印西地区消防組合消防本部)

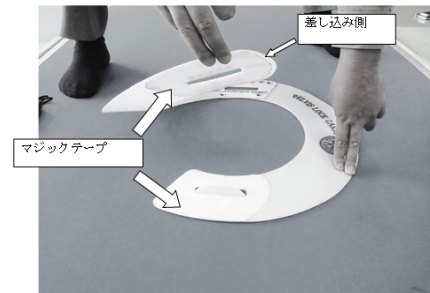
水難事故の多くの現場は車両進入困難等、悪条件が少なくない。現場到着から資材を準備し救助活動を開始するまでに時間を要する場合が多い。そこで、民間会社の協力を得て、空気呼吸器の空気圧を利用し、消防ホースに空気を送気し、膨張させるノズル・バルブを作成した。消火活動に使用する資機材を改良することにより大きな資機材を使用せず安全で迅速に救出可能となった。高額な資機材の購入も不要となり費用対効果が高い。



（2）ワンタッチ骨盤固定傷病者搬送器具（PELVIS LOCK CARRY）の開発

平岡 卓・寺山 誠司・濱野 栄希・荒岡 豪(呉市消防局)

救急隊員が傷病者を搬送するときには、徒手で持ち上げての方法であったため、負傷部位や身体の一部に負荷をかけていた。開発した器具は、傷病者の体位を変えずに、臀部の下面を包むように固定した状態で容易に装着できるため、脊椎損傷や腰椎圧迫骨折、骨盤骨折、大腿部骨折、寝たきりの傷病者などを、痛みを軽減と負傷部位に負担を掛けずに搬送できるので、容態の悪化を防ぐことができる。



（3）廃棄消防ホース等による救助訓練用人形の開発

村山 寛二(豊田市消防本部)

広範囲な分野の訓練が望まれるが、訓練用人形が配備されていないため、必要な訓練ができない現状がある。そこで、廃棄消防ホース及び廃棄救助ロープを使用し、訓練用人形の作成。特殊な道具や技術は不要で、大量の人形を安価に、誰でも作れる簡単で丈夫な構造、アイデア次第で身長体重・切断された体・水中使用等、様々な訓練に対応した人形の作成が可能となった。



(4) 可搬式消火薬剤混合器具の開発（クイックミキサーの開発）

濱口 明(名古屋市消防局)

普通ポンプ車・水槽付ポンプ車での消火薬剤混合放水は、設定条件が多々ある。そこでホースラインのどの位置にでも素早く簡単に、消火薬剤混合消火が可能な消火薬剤混合器具を制作。今回開発した作品は以前に、製作した消火薬剤混合器具を小型軽量化したもので活動性を大幅に向上させ、可搬式ポンプや屋内消火・などでも消火薬剤混合消火が可能となった。



(5) 救助活動用の磁石付き当て木の開発

下村 武司・伊崎 仁(東近江行政組合消防本部)

従来の当て木は、保持や固定に人手が必要となり、活動の障害にもなっていた。隊員の有効活用や、保持者の安全性の向上などから強力磁石の当て木を作成した。救助活動時、救助器具の力を最大限に引き出すには空間を埋める当て木の併用が必要不可欠である。重力に逆らう方向に落下することなく当て木を設定できる磁石付き当て木は、保有資機材の能力を最大限に引き出す器具となった。



B：消防職員・消防団員等による消防防災科学論文（4編）

（１）水深が浅く狭小な用水路におけるホースバッグを活用した吸水活動及び表面流速の簡易計測により流量を導出する方法について

米田 貴志・北岡 二郎・寺島 徹・中嶋 善貴・大西 佑輔・別所 斉・村上 陽介・安井 伸行・岩本 貴光(京都市消防局)

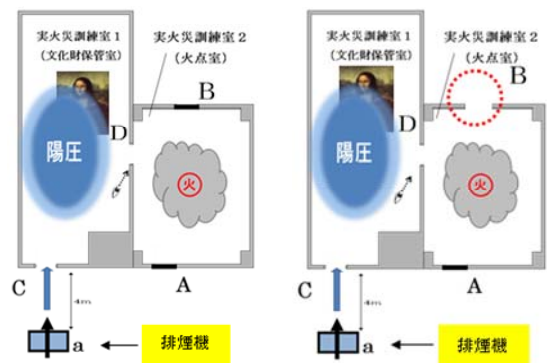
これまで様々な臨時せき止め方法が工夫されてきたが、大きな労力を要する一方でせき止め効率が悪かった。そこで既存の資器材であるホースバッグを用いる方法を考案した。袋状の部分に水が溜まり、ほぼ完全にせき止められ、水压で自己固定される。さらに、現場で簡易に行うことのできる「表面流速の測定」のみから水路の流水量を求めるため、表面流速と平均流速の関係（係数）を実験により明らかにし、必要とする流水量に対する「必要表面流速」の早見表を作成した。これにより、流速計などの機材を持たない消防隊員でも、現場で流水量を判定できるようになった。



（２）水流式排煙装置を活用した文化財保護戦術の構築

溝部 俊・村松 貴久・大川 雅敏・室谷 和典・山下 真矢(京都市消防局)

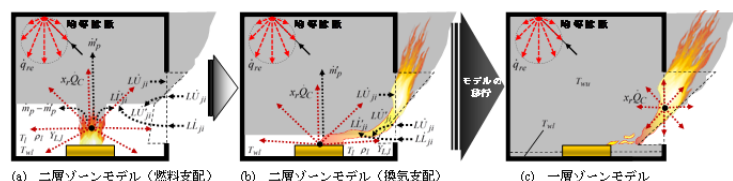
消防の持つ排煙技術を応用して文化財を火災時の煙から防護することを目的として、実験を行った。実験の結果、文化財保管室・火災室の陽圧・陰圧状態のコントロール方法及び開口部の適切な設定方法が確立でき、文化財保護活動の新たな一戦術を示すことができた。



（３）火源の燃焼予測を考慮した上・下部層物理量連成による区画火災性状予測モデルの構築

後藤 大輔（東京消防庁）、大宮 喜文（東京理科大学）、Michael A. Delichatsios (University of Ulster)

建築火災時の避難及び消防活動の安全性を検討する上で必須となる区画火災性状に関して、火源の燃焼予測を考慮した新たな予測モデルを構築した。そして、開口部・可燃物条件をパラメータとした実験を行い、モデルの妥当性を検証した。その結果、可燃性ガスの生成速度を定める重量減少速度の予測及びこれに基づく上・下部層温度の予測の他、従来のゾーンモデルでは不可能であった開口位置が異なる場合の区画火災性状の違いも予測可能となることを明らかにした。



（４）津波による車両火災に関する研究

井澤 義仁(名古屋市消防局)

東日本大震災では、津波直後から多くの車両火災が発生した。この出火原因は車両の電装品が海水に浸かったため発生したものと考察。実験によりバッテリーに直結されている電装品が電極となり海水を電気分解し、大量の水素を発生させていることが判明した。ハイスピードカメラでホーンによる水素の着火を撮影し、解析しそのメカニズムを解明した。

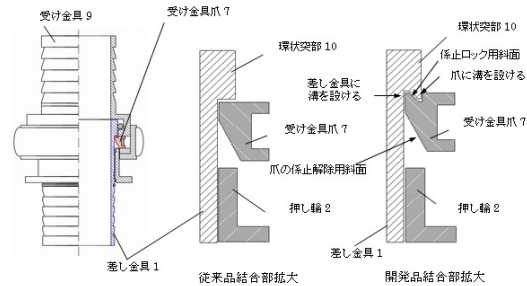


C： 一般による消防防災機器の開発・改良（5編）

（1）消防ホースにおける不意離脱防止結合金具の開発

廖 赤虹・山野 光一・坂本 直久・近藤 伸一・黄 雅雯(株式会社モリタホールディングス)

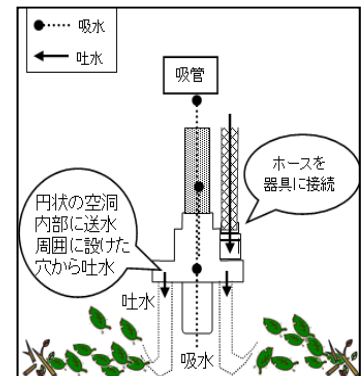
差込式の町野式結合金具は、優れた利便性と操作性を有するため、ほとんどの消防隊と多くの消火設備等に使用されている。一方で、町野式結合金具の利便性のひとつである容易な着脱機構は、不意の離脱が発生する事例も少なくない。そこで、金具の結合力を高め、不意離脱による消火活動への支障ならびに、金具の離脱にともなう消防ホース暴れの危険性を回避し、より安全で迅速な消防活動を可能とする金具を開発した。



（2）消防車 吸管詰まり防止器具の開発

鈴木 純・千代川 浩光(トヨタ自動車株式会社)

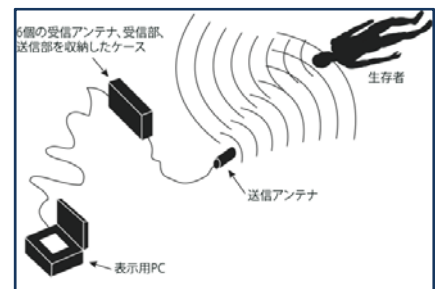
消防車で防火水槽や自然水利（川・池）から吸水時、堆積物（枯葉・ゴミ）が吸管ストレーナーに詰まり、消火作業中断とゴミ除去の工数が発生する。そこで、吸管ストレーナーに詰まる事が無くなり、堆積物が多い汚れた防火水槽や川・池で利用可能とする器具を開発。耐圧性を維持し軽量・簡易化させ今後も実用化に向けた対策を考案して行く。



（3）震災時の倒壊家屋に埋もれた生存者や雪崩の遭難者の発見とその存在位置が分かるマイクロ波探査装置の開発

荒井郁男（荒井電波研究所）、井原潤也（有限会社日本亜洲開発）、
宮本幸宏（新成物産株式会社）

現行のマイクロ波などの電波を用いた生存者探査装置は瓦礫に埋もれた生存者の有無しか検出できず、その存在位置までは特定できないという問題点があった。そこで、広帯域のスペクトル拡散信号と6個の受信アンテナを採用することによって、生存者の有無を検出するだけでなく、現行の存在位置が特定できないという問題点を解決した。



(4) 消防ホースのよじれおよびキンク解消金具の開発

岩崎 博己(株式会社岩崎製作所)

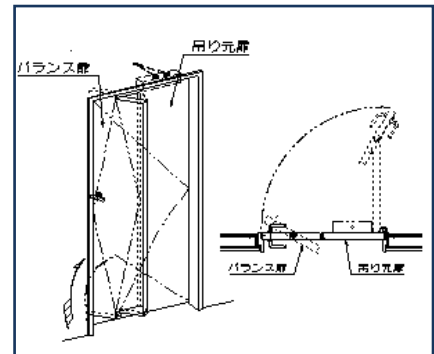
消防ホースに発生した「よじれ」が先端方向に向かいキンクが発生し、水の流れが止り、時には破断し非常に危険である。そこで、消防ホースに取り付けてある差込式接手をよじれ防止型差込式接手とし、回転部分にはステンレス製ボールを採用し、よりスムーズに回転する様にした。これにより、消火活動を迅速に行う事が出来る上に消防士の安全確保、その上、消防ホースの寿命も長くする事が出来ると考える。



(5) 防排煙設備稼働時に生じる差圧環境下で開放容易性・閉鎖確実性を有する防火扉の開発

今林 哲也、瀧川 弘幸、鐵矢 匡生(鐵矢工業株式会社)、
油野 健志、若松 孝旺(株式会社日本防災研究所)

機械排煙、加圧防排煙いずれの場合でも、開放容易性、閉鎖確実性および安全性という、相反する機能・要求性能を解決できる防火扉は存在していなかった。そこで、圧力調整ダンパー等を用いずに扉単体で要求される扉開放力 100N 以下で開放できる機構を開発した。これにより、避難、消火活動、区画形成、排煙のすべてにおいて、開き扉の問題点を解消し、信頼性・安全性の向上が期待できる。

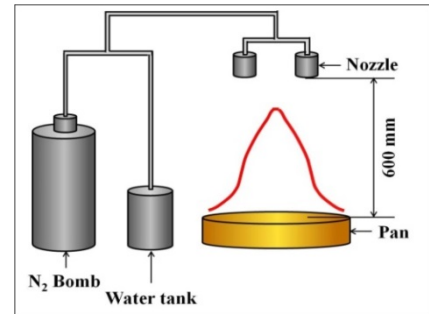


D： 一般による消防防災科学論文（1編）

（1）微量のエタノール添加によるウォーターミスト消火性能の向上

後藤 麻友・伊藤 昭彦(弘前大学大学院)

ウォーターミスト消火は、ミスト粒子の蒸発による冷却効果と水蒸気による窒息効果を併せ持つため消火能力が高く、かつ水損を低減できることから注目されている。本研究は、水の劣化防止の観点から純水にエタノールを添加したミスト消火実験を開始したが、当初の予想に反して微量のエタノール添加によりミストの消火能力が著しく向上したため、その原因を調査した。その結果、エタノール0.2%以上の添加で、純水に比べて消火時間が約1/3になること、その要因はエタノール添加によりミストの平均粒子径が減少すること、火源に流入するミストの粒子密度が増加すること、などによることを明らかにした。



E： 消防職員による原因調査事例報告（9編）

（1）太陽光発電システムからの出火事例について

柴田 敬吾(船橋市消防局)

太陽電池モジュールの構成部品から出火に至った可能性が高い事例である。建材一体型太陽電池モジュールのコネクタや配線類から出火に至った可能性が高いものと考えられたが、物的確証が得られないことから出火原因を特定するには至らなかった。しかし、今回の調査結果から製造元に対しては、さらなる安全対策を図るよう提言すると共に、システムの構造や当該火災に対する消防活動時の留意事項を各職員に周知した事案である。



（2）渦巻線香による火災事例に係る検証について

池田 悟司・田中 周一・岡本 茂樹・粕谷 幸充・伊藤 祐基(名古屋市消防局)

葬儀場において、渦巻線香が原因と思われる火災が発生した事案である。鎮火後の調査などから出火元は渦巻線香である可能性が高く、再現実験を行った。その結果、渦巻線香に点火し、有炎状態で放置した場合、有炎状態の線香のかけらが、納棺ふとんの上に落下し着火することが判明した。本事案から、渦巻線香が有炎燃焼した場合の危険性を広く普及させ、同様の火災発生防止に努めたい。



（3）自動車リサイクルの破碎工程における発炎筒からの出火事例

東良 省吾(姫路市消防局)

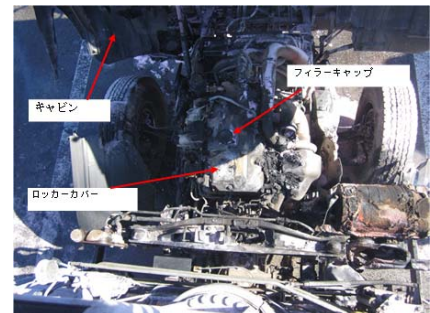
自動車に積載している発炎筒は、廃車にする際の処分方法は何ら示されていない。自動車リサイクル工場火災において、火災調査により、破碎工程で未処理のままの発炎筒が破碎機の衝撃で出火した可能性が高いことが分かった。自動車リサイクルを規制する経済産業省製造産業局自動車課へ、出火防止対策を要望し、その構築に向けた後押しを実施、実現に至ることができた火災事例である。



(4) リコールへ発展した車両火災

普通貨物自動車のエンジンルーム内の燃料漏洩により出火した事案である。燃料噴射装置へ繋がる燃料噴射管の末端部の製造不良により亀裂が発生し、洩した燃料が排気系統の高温部に触れ発火した。消防機関及び製造会社の合同調査後、消防機関が詳細調査を製造会社へ依頼し軽油の漏洩箇所を分析解明した結果、リコール事案へ発展したものである。

高村 憲生(神戸市消防局)



(5) 冷陰極蛍光ランプが起因する車両火災

車両の後付け電装製品である冷陰極蛍光ランプ（通称イカリング）が原因となる車両火災事例である。問題点は、冷陰極蛍光ライトが発光するのに専用のインバータが必要で、その性能、危険性、施工方法を十分に認識しないまま業者が販売し、整備士等が施工したことによる。個人オーナーにあっても同様の火災が発生するおそれが十分に考えられるため、幅広く再発防止の広報を行うために、関係機関に予防啓発等の協力依頼を行った。

厚 貴則(神戸市消防局)



(6) 普通乗用車の電動補助クーラントポンプからの出火に伴う調査活動とリコールについて

西田 佳則・山本 雅史(京都市消防局)

この火災は、一般住宅の敷地内駐車場において、エンジン停止後の普通乗用車から出火し、同普通乗用車1台が全焼し、住宅の1階、2階の一部に延焼、さらに隣家の外壁等の一部を焼損した事例である。X線透過装置を使用した非破壊調査を実施し、火災原因を究明した結果、火災発生日から26日目に世界9、200台（日本国内223台）のリコールに至ったものである。



(7) ローソクが起因する火災事例（火の点いた芯が飛ぶ現象）

梶井 一・生嶋 唯志・小椋 幸浩・日比野 誠・畠中 宏聡(枚方寝屋川消防組合消防本部)

「使用していたローソクの芯が火のついたまま落下もしくは火のついたまま飛び上がる」という、今までに確認されていない経過が発見された事案である。「類似火災を防止する」という観点から、長期にわたり燃焼実験を行い、ローソクが起因する新しい危険性を発見するとともに、ローソクの使用者に危険性を知らせるために、製品のパッケージ等に注意喚起文を追記させるに至ったものである。



(8) セルフスタンドで発生した静電気起因する火災の調査報告

西田 秀光・畠山 裕幸(大阪市消防局)

顧客に自ら給油等をさせる給油取扱所（セルフスタンド）において、乗用車に給油中火災が発生し、給油キャップの一部を焼損した事例である。給油者の除電行為、給油設備における除電対策、車両鑑識そして立証のための実験と調査を進めた結果、出火に至る経緯を解明するとともに、車両のタイヤの絶縁抵抗が静電気による火花放電の抑制に影響を与えることを発見した。



(9) 硫酸貯蔵タンク爆発火災調査

川島 彰・下田 直史(千葉市消防局)

硫酸貯蔵タンクの側板補修作業中に爆発が発生し、タンク及び周囲の建物を破損したものであり、大規模な爆発事故にも関わらず、発災時に誰も炎を見ておらず、焼損物件も確認されなかった。

現場見分、関係者の供述、収去物件の鑑定結果等から、鋼製の濃硫酸貯蔵用タンクに希硫酸を投入したことによる水素の発生が、爆発に至った要因である可能性が浮かび上がったことから、水素が爆発し得る諸条件について、消防研究センターの助言を受けながら分析・検討を行い、本事案はタンク内に発生した水素が、側壁の補修工事中のグラインダーの火花に引火した「化学的爆発」による「火災」であることを結論付けた。



2 奨励賞（3編）

（1）自然水利堰止め資機材「すのこ」

松本 光(鳥取県西部広域行政管理組合消防局)

公設消火栓や防火水槽の整備が行き届いていない地区では、自然水利の河川や用水路を堰止めて水利部署しているが水量、水深を確保するのに人員及び時間を要していた。自然水利堰止め資機材「すのこ」を、側溝などの整備された用水路で使用することにより簡単・迅速・確実に水量及び水深が確保できるようになった。



（2）可搬ポンプ用ワンタッチ吸管ストレーナー

菊川 俊弘(滝野川消防団)

東京23区の消防団では、可搬ポンプを手引き又は、積載車により災害現場へ搬送している。可搬ポンプには吸管が一本のみで、消火栓等に部署する場合は、藤かご、ストレーナーを離脱するため時間を要していた。消防団の可搬ポンプの吸管には、自然水利部署を目的とした吸水金具（ネジ式ストレーナー及び藤かご）が取り付けられているが、今回、改良した可搬ポンプ用ワンタッチ吸管ストレーナーの使用により、消火栓町野を吸管に取り付けたままにでき、ワンタッチで藤かごとストレーナーが取りはずせ、水利部署の変更が容易で、吸水時間の短縮が図られ、早期の放水が可能となる。



（3）救命扉の開発

倉谷 道治(越前市消防団)

扉は枠の変形・破損等で簡単に開かなくなり、避難路を絶たれる事になる。天災等の被災時に開かない扉は生命を危険に陥れる「驚異の壁」となる。また自宅や福祉施設等においても扉が開かず閉じ込められた事件は後を絶たない。そこで、扉のドアパネルに容易に破壊（押す・蹴る・叩く）できる機能を備えることで自力での脱出、外部からの救出を可能にした。また、車椅子対応型等、使用者に合わせ破壊する箇所・方向・力の設定が出来るようにした。更に設置工事は既存の敷居・鴨居があれば可能で、扉本体を破壊しなければ何回でも修復可能な構造となっている。



平成25年度
消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学論文及び原因調査事例報告の表彰
作品一覧

A: 消防職員・消防団員等による消防防災機器の開発・改良	
1	廃棄ホースを活用した訓練人形「ホースケ」の開発
2	二重巻きホース格納バンドの開発
3	空気呼吸器を利用した消防ホースの使用方法和機器の改良
4	自然水利堰止め資機材「すのこ」
5	可搬ポンプ用ワンタッチ吸管ストレーナー
6	浄水ジェットシューターの考案
7	エッジローラーの改良について考案
8	K・Y・S(危険・予知・シグナル)の考案
9	ワンタッチ骨盤固定搬送器具(PELVIS LOCK CARRY)の開発
10	ウォーターレスキューフレームの開発
11	エアチューブの開発
12	廃棄消防ホース等による救助訓練用人形の開発
13	可搬式消火薬剤混合器具の開発（クイックミキサーの開発）
14	ホースレイヤーにおけるホース収納ボックスの開発
15	三連梯子の固定器具の開発
16	梯子車の安全確実な車体設定への一方策
17	磁石付き当て木の開発
18	ローコスト画像伝送システムの開発
19	住宅火災延焼防止装置
20	光導波路法を用いた高感度一酸化炭素センサーの開発
21	救命扉の開発
22	ホース乾燥塔に設置したサーボ旋回台(HDカメラ)・IP装置による高所見張デジタル情報伝達システムの開発

平成25年度
消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学論文及び原因調査事例報告の表彰
作品一覧

B:消防職員・消防団員等による消防防災科学論文	
1	消防署がおこなう防災教育「災害護身術」について
2	予防技術の伝承(消防の用に供する設備(避難設備))
3	予防技術の伝承(消防機関へ通報する火災報知設備)
4	予防技術の伝承(予防は身を助ける)
5	予防技術の伝承(学習塾の項判定)
6	予防技術の伝承(消火活動上必要な施設(連結送水管設備))
7	予防技術の伝承(幼稚園、小・中学校の避難訓練指導)
8	予防技術の伝承(遠隔移報システム等による火災通報である即時通報について)
9	予防技術の伝承(適用が除外されない消防用設備等)
10	予防技術の伝承(トイレや浴室には、感知器が不要なのでしょうか?)
11	予防技術の伝承(自動火災報知設備の受信機音響装置について)
12	予防技術の伝承(消防用設備等に係る届出等に関する運用について(通知))
13	予防技術の伝承(消防ポンプの運用について)
14	予防技術の伝承(地下式消火栓からの吸水要領について)
15	予防技術の伝承((20)項の防火対象物)
16	予防技術の伝承((20)項の防火対象物の消火器)
17	予防技術の伝承(甲種防火管理の再講習について)
18	予防技術の伝承(はしご車が届かない高層ビルでの火災)
19	予防技術の伝承 (はしご車が届かない高層ビルでの火災(その2))
20	予防技術の伝承(防火対象物と建築物)
21	予防技術の伝承(消防法施行令第32条)
22	予防技術の伝承(消防法施行令第25条VS令第29条の4(二方向避難の避難器具))
23	予防技術の伝承(消防法施行令第25条VS第29条の4(その2))

平成25年度
消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学論文及び原因調査事例報告の表彰
作品一覧

24	予防技術の伝承(自動火災報知設備等の発報に伴う警戒出動)
25	予防技術の伝承(みなし従属)
26	予防技術の伝承(消防計画書の届出、消火・通報訓練の回数及び消防機関への通報)
27	予防技術の伝承(自動火災報知設備の受信機や非常放送設備の操作部前の有効な空間について)
28	予防技術の伝承(日常業務での疑問)
29	延焼防止装置の開発に関する研究
30	マルチ型スピンドルドライバーの開発に関する検討
31	水深が浅く狭小な用水路におけるホースバッグを活用した吸水活動及び表面流速の簡易計測により流量を導出する方法について
32	水流式排煙装置を活用した文化財保護戦術の構築
33	各種ノズルを用いた水圧解錠装置付きシャッターの解錠実験とそれに基づく「水圧解錠装置と消防装備のあり方」に関する検討
34	大規模建築物の自衛消防活動におけるヒューマンエラーの要因分析
35	可搬式ブロアーによる一酸化炭素排出効果及び冷却効果について
36	火源の燃焼予測を考慮した上・下部層物理量連成による区画火災性状予測モデルの構築
37	津波による車両火災に関する研究

C: 一般による消防防災機器の開発・改良	
1	不意離脱防止結合金具の開発
2	小型・軽量の探査型レスキューロボットの開発
3	消防車 吸管詰まり防止器具の開発
4	震災時の倒壊家屋に埋もれた生存者や雪崩の遭難者の発見とその存在位置が分かるマイクロ波探査装置の開発
5	消防ホースのよじれ および キンク解消金具の開発
6	防排煙設備稼働時に生じる差圧環境下で開放容易性・閉鎖確実性を有する防火扉の開発
7	圧力計付筒先(管槍)の開発
8	消防・消火ノズル

平成25年度
消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学論文及び原因調査事例報告の表彰
作品一覧

D: 一般による消防防災科学論文	
1	倒壊建造物の安定化のための軽量・高強度ショア構造の検討
2	微量のエタノール添加によるウォーターミスト消火性能の向上
3	精神科救急における搬送・受入れの負担要因の調査、および精神科患者の緊急度判定プロトコルの開発とタブレット型端末を用いた緊急度判定の有用性の研究

E: 消防職員による原因調査事例	
1	ハロゲンライトの調査報告
2	太陽光発電システムからの出火事例について
3	渦巻線香による火災事例に係る検証について
4	自動車リサイクルの破砕工程における発炎筒からの出火事例
5	飲食店の排気ダクトに設置された電気集塵機からの出火事例
6	ベルトコンベアの火災原因調査について
7	蟻が引き起こす電気火災
8	仕様変更の及ぼす影響について(過電流)
9	側方灯のスイッチから出火(突入電流)した火災事例
10	リコールのリコール(食器洗い乾燥機)
11	リコールへ発展した車両火災
12	冷陰極蛍光ランプが起因する車両火災
13	新装オープン間もない飲食店の業務用ガスこんろの伝導過熱による壁体内からの出火について
14	リコール対象車両が出火した事案
15	合成樹脂製の櫓が使用されていた神棚のローソク火からの出火事例
16	普通乗用車の電動補助クーラントポンプからの出火に伴う調査活動とリコールについて
17	ローソクが起因する火災事例
18	セルフスタンドで発生した静電気に起因する火災の調査報告

平成25年度
消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学論文及び原因調査事例報告の表彰
作品一覧

19	自動車塗料乾燥ブースに付属する排気ダクトからの火災について
20	硫酸貯蔵タンク爆発火災調査

第61回全国消防技術者会議の開催について（ご案内）

消防研究センターでは、全国の消防の技術者が消防防災の科学技術に関する調査研究、技術開発等の成果を発表するとともに、参加する他の発表者や聴講者と討論を行う「全国消防技術者会議」を毎年開催しています。

61回目となる今年の会議は、下記のとおり開催します。皆様のご来聴をお待ちしております。

- | | |
|-------------|---|
| 1 開催日 | 第1日 平成25年10月24日（木）
第2日 平成25年10月25日（金） |
| 2 場所 | ニッショーホール（日本消防会館）
東京都港区虎ノ門2-9-16 |
| 3 参加費 | 無料 |
| 4 プログラム | 消防研究センターのホームページ
（ http://nrifd.fdma.go.jp/ ）をご覧ください（「イベント情報」の欄の「【技術】第61回全国消防技術者会議」のリンクをクリック）。逐次詳細なものに更新します。 |
| 5 聴講申し込み方法 | 聴講を希望される方は、次のサイトにアクセスし、必要事項を入力して聴講の申し込みをしてください。申し込みを取り消す場合、申し込み内容を変更する場合にも、このサイトをご利用ください。
〈URL〉 https://ez-entry.jp/61_gijutsusha/entry/
なお、上記の方法により申し込むことが難しい場合は、下記問合せ先にお問合せください。 |
| 6 聴講申し込み〆切り | 10月21日（月） |
| 7 問い合わせ先 | 消防庁 消防研究センター 研究企画室
〒182-8508 東京都調布市深大寺東町4-35-3
TEL 0422-44-8331 FAX 0422-44-8440
E-mail: 61_gijutsusha@fri.go.jp |